

令和6年度

賃 貸 不 動 産 経 営 管 理 士 試 験

過去に出題されたテーマからの出題が多かったが、例年に比べ突っ込んだ出題や細かい論点を問う問題が多く、「難しい」と感じた受験生が多かったのではないかと思われる。合格ラインも昨年（36点）よりも下がることが予想される。出題形式では、例年通り個数問題が多く（7問）、組合問題もあった（2問）。

科目別には、「賃貸不動産管理に関する法令」は新しいテーマとして「消費者契約法（問39）」「特定家庭用機器再商品化法（問40）」や「被保佐人（問4肢3）」が出題されたが、その他は既出の論点が多かった。「賃貸住宅管理業法等」は出題数が昨年から1問減り（19問）、平易な問題と細かい論点を問う難易度が高い問題が明確に分かれた。「賃貸不動産管理の実務」では、会計問題に関する出題がなく、既出のテーマがほとんどであったが、例年に比べ難易度が高い問題（少額訴訟（問11）、相続税・贈与税（問44）、不動産証券化（問45））が出題された。「維持・保全」は、例年に比べ難易度が高く、結露（問15）、防水工法（問47）が新しいテーマとして出題されたが、それ以外の既出のテーマの問題であり、この部分をいかに得点するかがポイントとなった。

以上